九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

来日インドネシア人、フィリピン人介護福祉士候補者の実像

安立, 清史
九州大学大学院人間環境学研究院 : 教授

大野, 俊
九州大学アジア総合政策センター : センター長, 教授

平野, 裕子
九州大学大学院医学研究院保健学部門 : 准教授

小川, 玲子
九州大学アジア総合政策センター : 准教授

他

https://doi.org/10.15017/17935

出版情報：九州大学アジア総合政策センター紀要. 5, pp.163-174, 2010-06-30. 九州大学アジア総合政策センター
バージョン：
権利関係：

KYUSHU UNIVERSITY

来日インドネシア人、フィリピン人介護福祉士候補者の実像

Real Images and Realities of Indonesian and
Filipino Certified Careworker Candidates under the EPA Program

安立 清史
(九州大学大学院人間環境学研究院教授)
大野 俊
(九州大学アジア総合政策センター長・教授)
平野 裕子
(九州大学大学院医学研究院准教授)
小川 玲子
(九州大学アジア総合政策センター准教授)
クレアシタ
(九州大学人間環境学研究院大学院生)
ADACHI Kiyoshi
(Professor, School of Human-Environment Studies, Kyushu University)
OHNO Shun
(Director and Professor Kyushu University Asia Center)
HIRANO O. Yuko
(Associate Professor, School of Medical Sciences, Kyushu University)
OGAWA Reiko
(Associate Professor, Kyushu University Asia Center)
KREASITA
(Graduate Student, School of Human-Environment Studies, Kyushu University)

Abstract

We have conducted questionnaire surveys on certified careworker candidates from Indonesia and the Philippines in 2009. There are significant differences between Indonesia and Filipino certified careworker candidates regarding age, marital status, religion, motivations to apply to EPA programs and worries. We should take into account these differences to understand them. Also we should establish appropriate support systems for those candidates.

Key words : Certified careworker candidates from Indonesia and the Philippines, motivations, worries

要 約

EPA（経済連携協定）によって来日したインドネシア介護福祉士候補者とフィリピン介護福祉士候補者が、どのような属性や特徴をもつ人たちであるのか、どのような動機と期待をもって来日し、どのような心配や不安をもっていたのか、を2009年にアンケート調査した結果を報告する。来日前にインドネシアとフィリピンの現地でアンケート調査を実施し、ほぼ全数の候補者から回答を得た。その結果、年齢や婚姻状況、宗教などで顕著な違いが見られた。また来日動機や心配項目についても違いがみられた。インドネシアやフィリピンからの介護福祉士候補者の受け入れとサポートにあたっては、こうした違いを考慮にいれていく必要がある。

キーワード：インドネシアとフィリピン介護福祉士候補者、来日動機、心配や不安

1．はじめに

経済連携協定[1]によって2008年からインドネシア人介護福祉士候補者[2]が、2009年からフィリピン人介護福祉士候補者[3]が来日し、日本の介護老人福祉施設などで働きはじめた。この人たちが、どのような属性や特徴をもつ人たちであるのか、どのような動機と期待をもって来日し、どのような心配や不安をもっていたのか。そして日本の病院や施設で働き始めてからは、どのような現実に直面し、どのような問題を感じているのか。こうした実態や現実については、マスメディアによるエピソード的で断片的な紹介は数多くなされてきたが、統計的にみた全体像のデータはこれまでほとんどなかった。現在、EPA による受け入れの枠組みや候補者への国家資格試験のあり方についても論議されている。しかし、制度や政策は、本来、統計的な全体像の現実や実態にもとづいて議論され、修正されたり改正されたりすべきである。

また、政府や自治体・行政、病院や施設、周囲の人びとやボランティア、地域住民などからも日本語学習や受け入れのサポートが様々になされている。こちらも、断片的なサポートニーズの把握ではなく、統計的な全体像の現実や実態にもとづいて、候補者たちの不安やサポートニーズの把握がなされるべきである。

しかしながら、これまでのところ、来日したインドネシア看護師・介護福祉士候補者が、どのような人たちであるのか、実証的なデータに乏しかった。また第一陣と第二陣とで、候補者たちに、どのような違いがあるのか、そうしたデータにも乏しかった。きちんとした統計的なデータを蓄積しながら、現実に生じている問題への対処や対応を進めていくべき時期に来ているのである。

われわれは、国際交流基金関西センターの協力により、来日したインドネシア介護福祉士候補者の第一陣に対するアンケート調査を、限定的ではあったが実施している（2009年１月)。また2009年５月には、フィリピン政府海外雇用庁の協力を得て、フィリピン人看護師・介護福祉士候補者のほぼ全数へのアンケート調査を、出発前オリエンテーション時に実施した。ついで2009年８月には、在インドネシア日本大使館、外務省、ヒューマンリソシア株式会社の協力を得て、インドネシア看護師・介護福祉士候補者のほぼ全数[4]に対するアンケート調査を、バンドンにおける日本語研修期間中に実施した。この二つのアンケート調査は、ほぼ同一の項目を用いたアンケート調査票を用いた自記式による集合調査である。

本論文は、この二つのアンケート調査の結果の中から、インドネシアとフィリピンから来日した介護福祉士候補者の属性や特徴、来日動機や不安などを比較して報告するものである。また第一陣のインドネシア介護福祉士候補者へのアンケート調査結果も、比較のため一部紹介する。

2．調査の概要

インドネシアからの看護師・介護福祉士候補者の第二陣に対するアンケート調査は、在インドネシア日本大使館、外務省、ヒューマンリソシア株式会社の協力を得て、バンドンにおける日本語研修期間中に実施した（2009年８月)。調査方法は、日本語研修時のクラスにおいて調査票を配布し自記式によって記入されたものを、日本語研修講師が回収する集合調査法で、調査票の使用言語はインドネシア語である。有効回答票は364票で、回収率は99.2%、うち181人が介護福祉士候補者であった。

なお比較に用いた第一陣のインドネシア介護福祉士候補者へのインドネシア語でのアンケート調査は、2009年１月に、国際交流基金関西センターの協力をえて実施されたもので、これも、日本語研修時のクラスにおいて調査票を配布し自記式によって記入されたものを、日本語研修講師が回収する集合調査法であった。この調査では、対象者が介護福祉士候補者の一部に限定されているので、必ずしも第一陣のインドネシア看護師・介護福祉士候補者の全体像を示すものではないが、参考のため比較対象とした[5]。

1　Economic Partnership Agreement：以下 EPA と略する。
2　インドネシア人看護師・介護福祉士候補者は、2008年８月に208人、2009年11月に360人が来日した。
3　フィリピン人介護福祉士・看護師候補者の第一陣は2009年283人が来日した。
4　現地での日本語研修を免除された数名についてはアンケート調査から外れている。

フィリピンからの看護師・介護福祉士候補者の第一陣に対するアンケート調査は、2009年５月にフィリピン海外雇用庁の協力を得て、出発前オリエンテーション時に調査票（使用言語は英語である）を配布し 、その場で自記式による回答を回収する集合調査法で、有効回答票は272票（回収率：95.4%）。うち170人が介護福祉士候補者であった。

３．単純集計結果からみたインドネシアとフィリピン人候補者の比較

属性

・性別

インドネシア介護福祉士候補者のほうが、フィリピン介護福祉士候補者よりもやや男性比率が高かった。しかし前述した第一陣のインドネシア介護福祉士候補者への調査では男性が約６割であったことを考えると、男性の来日比率が大幅に減少している。しかしながら性別比率の推移については、データを蓄積して慎重に見ていく必要があるだろう。

・年齢分布

インドネシア介護福祉士候補者の年齢層は若く、20代がほとんどである。また最頻値が23歳にある。この傾向は第一陣でも確認されている。それにたいしてフィリピン介護福祉士候補者は年齢分布が20代から40代まで幅広く分散している。ただしフィリピン介護福祉士候補者の傾向も第二陣から変わるかもしれず、年齢分布についてもデータの蓄積を行い、分析に活かしていく必要があろう。

・婚姻状況

年齢分布とも関連するのであろうが、年齢層の高いぶん、フィリピン介護福祉士候補者のほうが婚姻比率が有意に高かった。この違いは、来日動機にも影響を与えている。

・宗教

インドネシア介護福祉士候補者の９割以上がイスラム教徒である。対照的に、フィリピン介護福祉士候補者の８割以上がカトリックであり、プロテスタントとあわせるとフィリピン介護福祉士候補者のほぼ９割がキリスト教徒である。

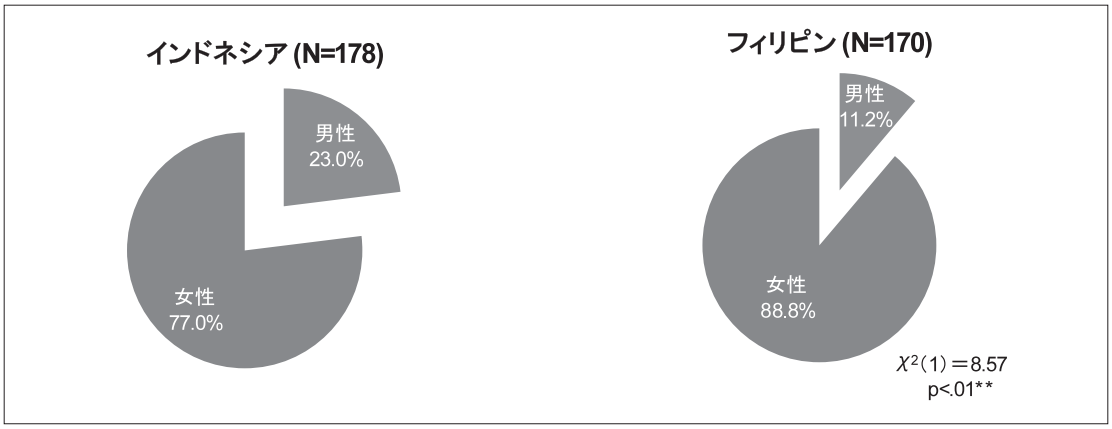
・日本在住経験

インドネシア介護福祉士候補者には、日本在住経験を持つ人はほとんどいなかった。フィリピン介護福祉士候補者では17%が日本在住経験を持つ。

・日本文化についての知識

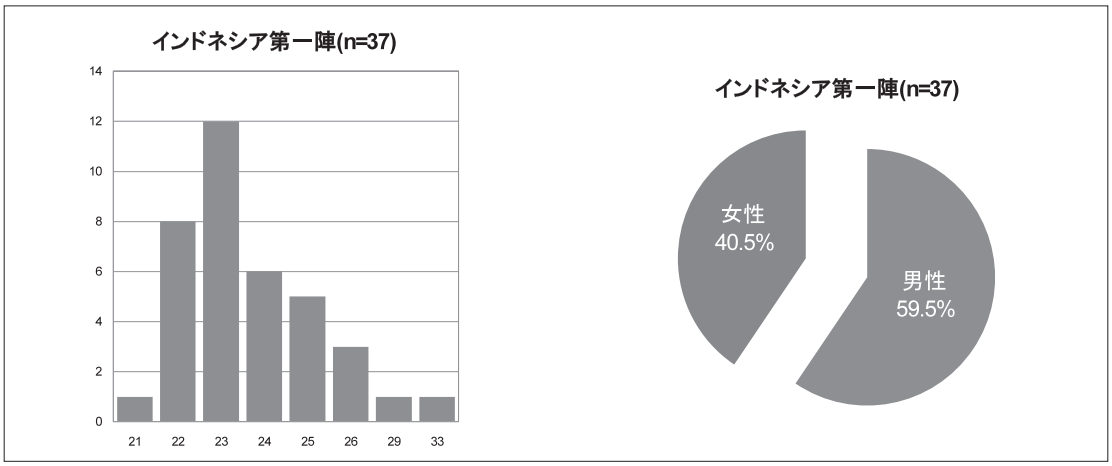
インドネシア介護福祉士候補者もフィリピン介護福祉士候補者もほぼ同じ傾向で有意差は見られない。良く知っているが約４分の１で、ほかは少し知っている程度である。

性　　別

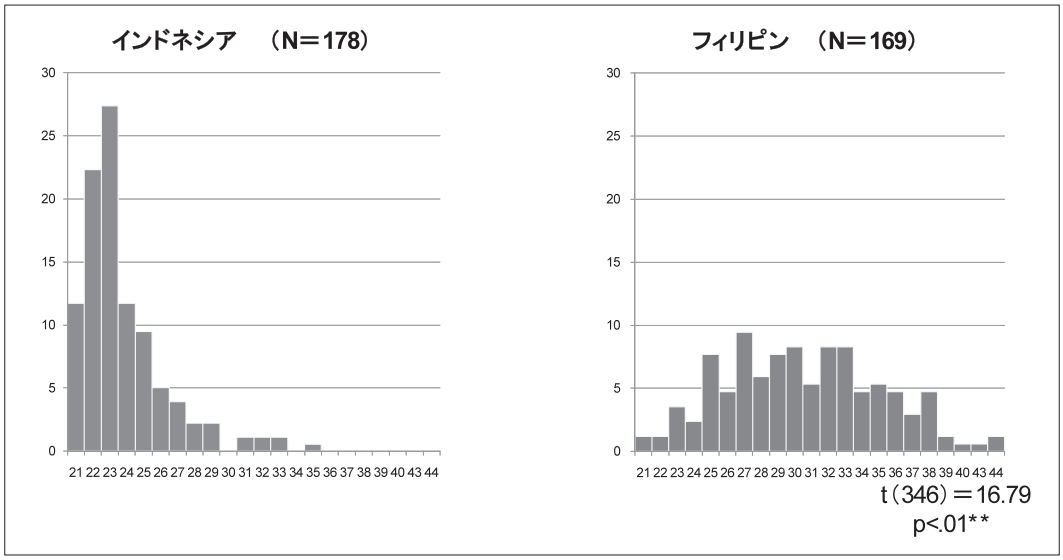


5 第１陣のインドネシア介護福祉士候補者で国際交流基金関西センターで日本語研修を受けた全員（57人）に調査票を配布し、37票を有効回答として集計分析した。有効回収率は64.9%である。この調査結果については、2009年５月23日に福岡で開催された九州大学アジア総合政策センター主催の催し「インドネシア人ケアワーカーを日本に迎えて」で報告している。

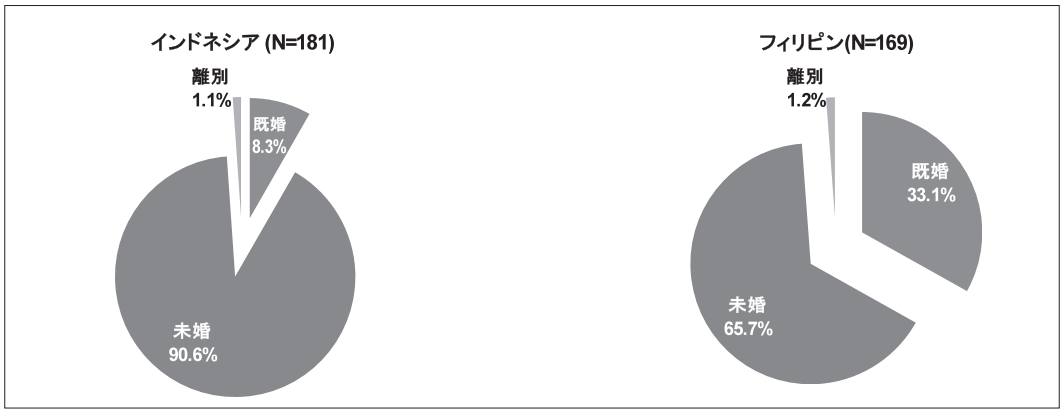
参考(インドネシア第一陣)



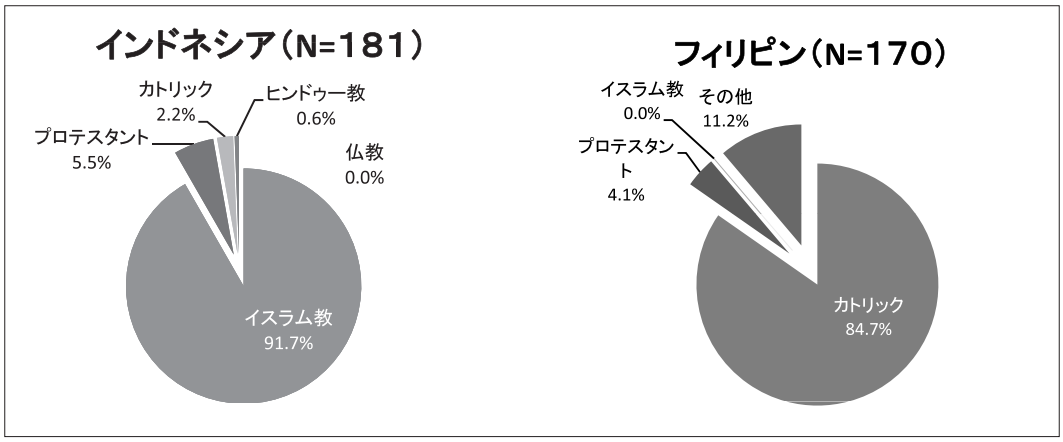
年　　齢



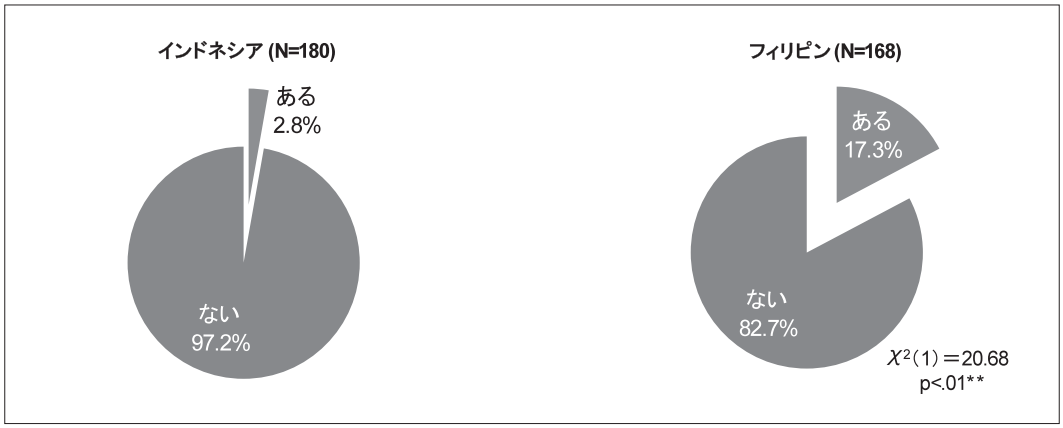
婚　姻　状　況



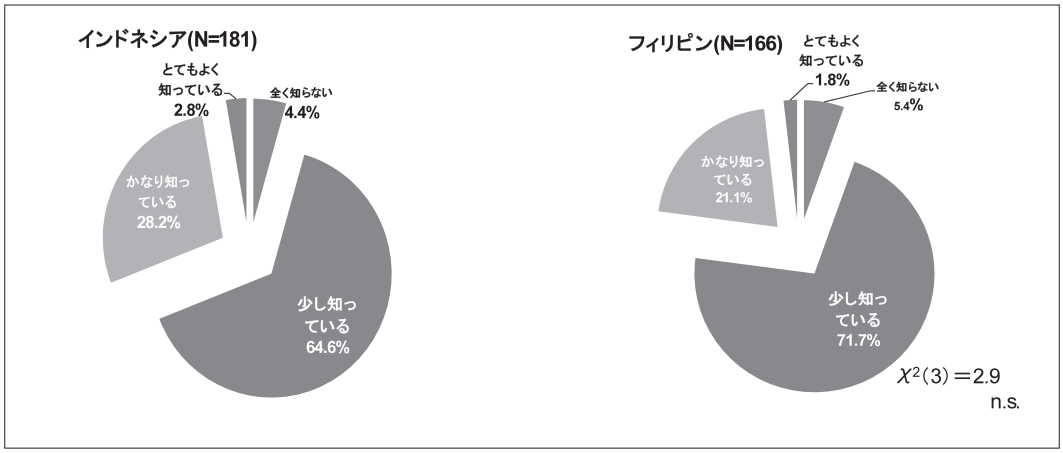
宗　　教



以前に日本に住んだことがあるか



日本文化についてどの程度知っているか



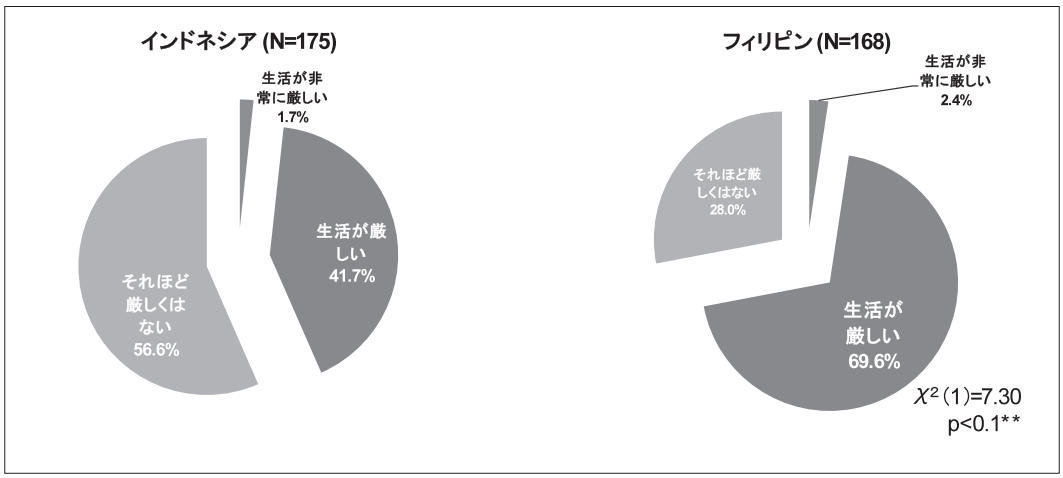
・経済状況
経済状況が苦しいという人の比率は、インドネシア介護福祉士候補者で約４割であるが、フィリピン介護福祉士候補者では約７割と顕著な違いがある。この違いが、来日動機にも有意に影響している。

・介護士経験
質問文の「介護士（caregiver あるいは care worker)」という言葉は多義的で、国によって意味合いも微妙に違うこともあり、厳密な比較は難しいが、インドネシア介護福祉士候補者では約15%、フィリピン介護福祉士候補者では約半数が経験ありと答えている。そのうち海外で介護士として出稼ぎをした経験を問うたサブクエスチョンでは、インドネシア介護福祉士候補者では海外出稼ぎは皆無だったが、フィリピン介護福祉士候補者では約四分の一が経験ありと答えている。こうした違いについては、今後とも継続的に精査していく必要があろう。

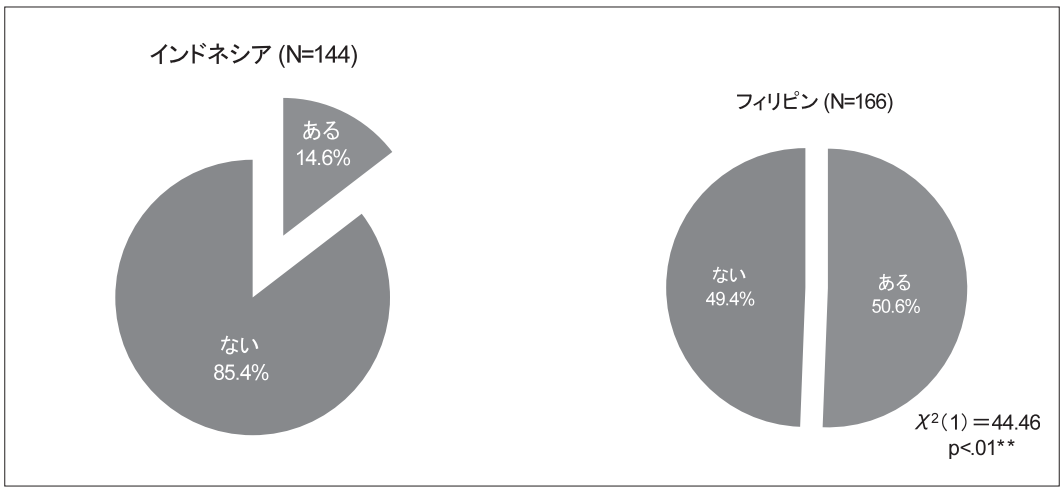
４．来日動機

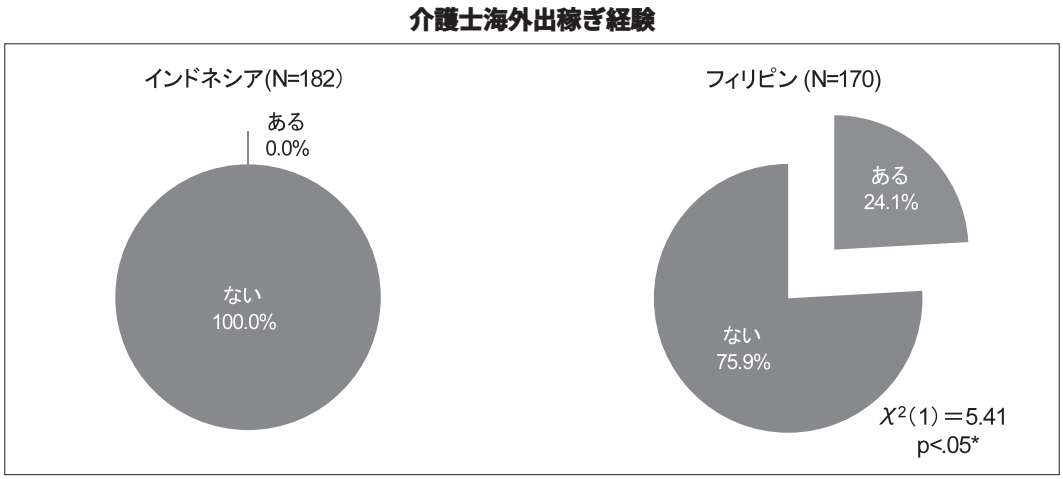
来日した動機は、単純ではなく多くの要因が複雑にからんでいるのではなかろうか。来日した動機を複数回答で選択してもらったところ、インドネシア介護福祉士候補者、フィリピン介

経 済 状 況



介 護 士 経 験





護福祉士候補者ともに多くの項目で８割以上も選択されていた。その中で「応募時点で仕事がなかったから」「フィリピン／インドネシアでの給与に満足できなかったから」「日本で既に生活している、家族や親戚がいたから」「日本に働きに行くことを家族から勧められたから」などを選択する人は両国とも相対的には少なかった。比較のため、インドネシア介護福祉士候補者第一陣でのアンケート調査の結果も示しておく。

両国の介護福祉士候補者の来日動機について有意差の確認された項目をみてみると、「EPAへの応募時点で仕事がなかったから」「日本に働きに行くことを家族から勧められたから」「日本の文化（アニメーションや漫画など）に関心があるから」「日本での経験を、将来他国の病院や施設で生かしたいから」などでは、インドネシア介護福祉士候補者のほうで、フィリピン介護福祉士候補者よりも有意に多く選択されている（$p<.01$）。また、「フィリピン／インドネシアでの給与に満足できなかったから」「日本で既に生活している、家族や親戚がいたから」などでは反対にフィリピン介護福祉士候補者のほうで、インドネシア介護福祉士候補者よりも有意に多く選択されている（$p<.01$）。

ついで来日した動機を一位から三位までランクづけてもらったところ、第一位の来日動機は、インドネシア介護福祉士候補者では「自分のキャリアをのばしたいから」がもっとも多く、ついで「家族を経済的に支援したいから」であった。反対に、フィリピン介護福祉士候補者では「家族を経済的に支援したいから」がもっとも多く、ついで「自分のキャリアをのばしたいから」であった。ともに自分のキャリアと家族支援とがもっとも大きな来日動機になっているが、その優先順位は違っていた。ただし、今回のデータだけで両国の介護福祉士候補者の違いについて確定的なことは言えないことはもちろんである。

・性別にみた来日動機の分析

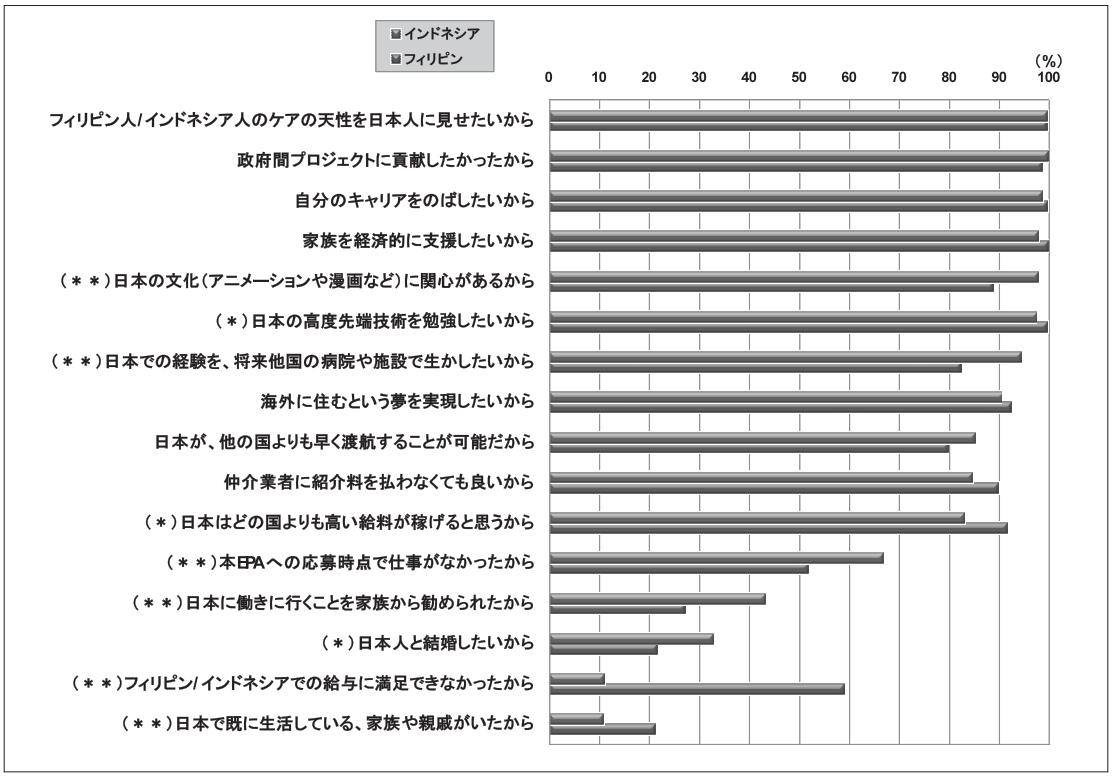
来日動機を性別にクロス集計してみたところ、インドネシア介護福祉士候補者においては、性別による有意な違いは見られなかった。フィリピン介護福祉士候補者では、「日本で既に生活している、家族や親戚がいたから」と「日本はどの国よりも高い給料が稼げると思うから」という理由が、女性のほうで男性よりも多く選択されていた。全体的にみると、予想と反して、性別による来日動機の違いはあまり大きくなかったと言えよう。

・経済状況と来日動機との関連

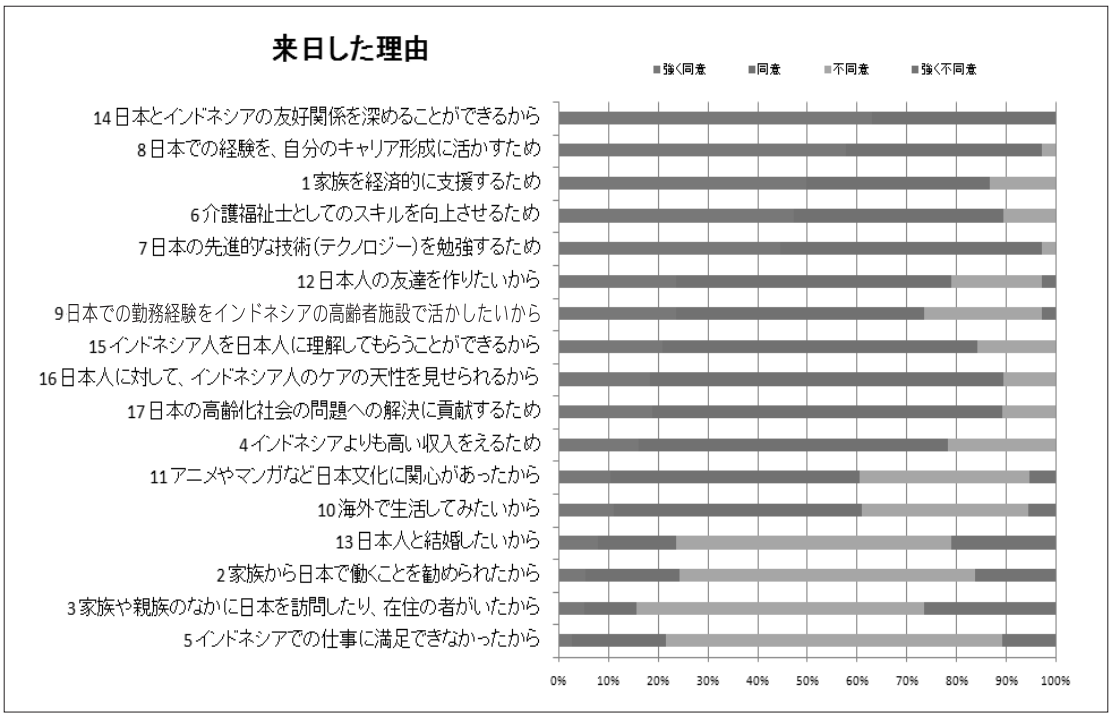
来日動機を、経済状況別にクロス集計してみたところ、インドネシア介護福祉士候補者では、「日本に働きに行くことを家族から勧められたから」「日本はどの国よりも高い給料が稼げると思うから」「フィリピン／インドネシアでの給与に満足できなかったから」という理由が、経済状況が苦しい人では、経済状況が苦しくない人に比べて有意に高かった。

フィリピン介護福祉士候補者では、「本

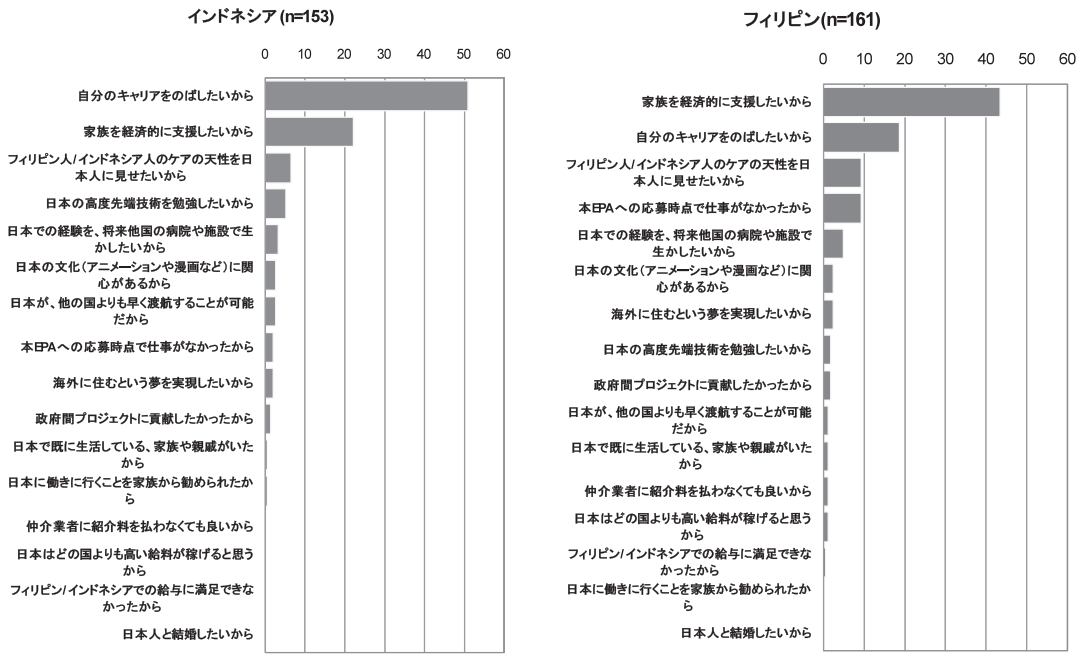
来 日 動 機



参考(インドネシア第一陣)



来日動機(第一位)



インドネシア介護福祉士候補者の性別による来日動機の違い

	男性		女性		計					
	人数	%	人数	%	人数	%	χ^2	df	p	有意差
応募時点で仕事がなかったから	28	71.8	87	64.9	115	66.5	0.64	1	.424	n.s.
日本で既に生活している、家族や親戚がいたから	3	7.5	16	12.0	19	11.0	0.65	1	.422	n.s.
自分のキャリアをのばしたいから	41	100.0	133	98.5	174	98.9	0.61	1	.433	n.s.
日本に働きに行くことを家族から勧められたから	13	35.1	60	45.1	73	42.9	1.18	1	.278	n.s.
日本が、他の国よりも早く渡航することが可能だから	30	83.3	108	85.7	138	85.2	0.13	1	.723	n.s.
日本の文化（アニメーションや漫画など）に関心があるから	41	100.0	129	97.0	170	97.7	1.26	1	.261	n.s.
家族を経済的に支援したいから	39	97.5	131	97.8	170	97.7	0.01	1	.923	n.s.
日本の高度先端技術を勉強したいから	37	94.9	129	97.7	166	97.1	0.87	1	.352	n.s.
海外に住むという夢を実現したいから	33	89.2	119	90.2	152	89.9	0.03	1	.863	n.s.
政府間プロジェクトに貢献したかったから	39	100.0	129	99.2	168	99.4	0.30	1	.583	n.s.
日本はどの国よりも高い給料が稼げると思うから	30	81.1	103	84.4	133	83.6	0.23	1	.630	n.s.
日本での経験を、将来他国の病院や施設で生かしたいから	35	92.1	124	94.7	159	94.1	0.34	1	.557	n.s.
日本人と結婚したいから	11	34.4	38	32.5	49	32.9	0.04	1	.840	n.s.
仲介業者に紹介料を払わなくても良いから	33	86.8	102	83.6	135	84.4	0.23	1	.631	n.s.
フィリピン人／インドネシア人のケアの天性を日本人に見せたいから	40	100.0	132	100.0	172	100.0	—	—	—	—
フィリピン／インドネシアでの給与に満足できなかったから	2	5.6	15	12.0	17	10.6	1.23	1	.268	n.s.

フィリピン介護福祉士候補者の性別にみた来日動機

	男性		女性		計					
	人数	%	人数	%	人数	%	χ^2	df	p	有意差
応募時点で仕事がなかったから	9	47.4	77	52.0	86	51.5	0.15	1	.702	n.s.
日本で既に生活している、家族や親戚がいたから	1	5.3	34	23.1	35	21.1	3.23	1	.072	p<.10 †
自分のキャリアをのばしたいから	19	100.0	150	100.0	169	100.0	—	—	—	—
日本に働きに行くことを家族から勧められたから	4	21.1	41	27.9	45	27.1	0.40	1	.528	n.s.
日本が、他の国よりも早く渡航することが可能だから	12	66.7	112	81.2	124	79.5	2.05	1	.152	n.s.
日本の文化（アニメーションや漫画など）に関心があるから	17	94.4	133	88.7	150	89.3	0.56	1	.454	n.s.
家族を経済的に支援したいから	19	100.0	150	99.3	169	99.4	0.13	1	.722	n.s.
日本の高度先端技術を勉強したいから	19	100.0	149	100.0	168	100.0	—	—	—	—
海外に住むという夢を実現したいから	18	94.7	135	92.5	153	92.7	0.13	1	.720	n.s.
政府間プロジェクトに貢献したかったから	19	100.0	147	98.0	166	98.2	0.39	1	.534	n.s.
日本はどの国よりも高い給料が稼げると思うから	14	73.7	139	93.9	153	91.6	8.98	1	.003	p<.01 **
日本での経験を、将来他国の病院や施設で生かしたいから	15	78.9	122	83.0	137	82.5	0.19	1	.662	n.s.
日本人と結婚したいから	5	27.8	29	20.6	34	21.4	0.49	1	.482	n.s.
仲介業者に紹介料を払わなくても良いから	17	89.5	131	90.3	148	90.2	0.01	1	.904	n.s.
フィリピン人／インドネシア人のケアの天性を日本人に見せたいから	19	100.0	150	100.0	169	100.0	—	—	—	—
フィリピン／インドネシアでの給与に満足できなかったから	10	52.6	87	59.6	97	58.8	0.34	1	.562	n.s.

インドネシア介護福祉士候補者の経済状況と来日動機との関連

	困難な経済状況		それほど困難でない		計					
	人数	%	人数	%	人数	%	χ^2	df	p	有意差
応募時点で仕事がなかったから	47	63.5	65	67.0	112	65.5	0.23	1	.634	n.s.
日本で既に生活している、家族や親戚がいたから	10	13.5	8	8.3	18	10.6	1.18	1	.276	n.s.
自分のキャリアをのばしたいから	76	100.0	96	98.0	172	98.9	1.57	1	.210	n.s.
日本に働きに行くことを家族から勧められたから	37	52.1	36	37.1	73	43.5	3.75	1	.053	p<.10 †
日本が、他の国よりも早く渡航することが可能だから	59	85.5	77	84.6	136	85.0	0.02	1	.876	n.s.
日本の文化（アニメーションや漫画など）に関心があるから	71	95.9	96	99.0	167	97.7	1.68	1	.195	n.s.
家族を経済的に支援したいから	75	98.7	92	96.8	167	97.7	0.63	1	.428	n.s.
日本の高度先端技術を勉強したいから	72	97.3	92	96.8	164	97.0	0.03	1	.862	n.s.
海外に住むという夢を実現したいから	65	91.5	85	89.5	150	90.4	0.20	1	.654	n.s.
政府間プロジェクトに貢献したかったから	73	100.0	92	98.9	165	99.4	0.79	1	.374	n.s.
日本はどの国よりも高い給料が稼げると思うから	61	89.7	70	79.5	131	84.0	2.94	1	.086	p<.10 †
日本での経験を、将来他国の病院や施設で生かしたいから	70	98.6	87	90.6	157	94.0	4.60	1	.032	p<.05 *
日本人と結婚したいから	22	33.3	26	31.7	48	32.4	0.04	1	.834	n.s.
仲介業者に紹介料を払わなくても良いから	53	76.8	80	89.9	133	84.2	4.99	1	.026	p<.05 *
フィリピン人/インドネシア人のケアの天性を日本人に見せたいから	73	100.0	97	100.0	170	100.0	—	—	—	—
フィリピン/インドネシアでの給与に満足できなかったから	11	16.2	7	7.8	18	11.4	2.71	1	.100	p<.10 †

フィリピン介護福祉士候補者の経済状況と来日動機との関連

	困難な経済状況		それほど困難でない		計					
	人数	%	人数	%	人数	%	χ^2	df	p	有意差
応募時点で仕事がなかったから	47	63.5	65	67.0	112	65.5	0.23	1	.634	n.s.
日本で既に生活している、家族や親戚がいたから	10	13.5	8	8.3	18	10.6	1.18	1	.276	n.s.
自分のキャリアをのばしたいから	76	100.0	96	98.0	172	98.9	1.57	1	.210	n.s.
日本に働きに行くことを家族から勧められたから	37	52.1	36	37.1	73	43.5	3.75	1	.053	p<.10 †
日本が、他の国よりも早く渡航することが可能だから	59	85.5	77	84.6	136	85.0	0.02	1	.876	n.s.
日本の文化（アニメーションや漫画など）に関心があるから	71	95.9	96	99.0	167	97.7	1.68	1	.195	n.s.
家族を経済的に支援したいから	75	98.7	92	96.8	167	97.7	0.63	1	.428	n.s.
日本の高度先端技術を勉強したいから	72	97.3	92	96.8	164	97.0	0.03	1	.862	n.s.
海外に住むという夢を実現したいから	65	91.5	85	89.5	150	90.4	0.20	1	.654	n.s.
政府間プロジェクトに貢献したかったから	73	100.0	92	98.9	165	99.4	0.79	1	.374	n.s.
日本はどの国よりも高い給料が稼げると思うから	61	89.7	70	79.5	131	84.0	2.94	1	.086	p<.10 †
日本での経験を、将来他国の病院や施設で生かしたいから	70	98.6	87	90.6	157	94.0	4.60	1	.032	p<.05 *
日本人と結婚したいから	22	33.3	26	31.7	48	32.4	0.04	1	.834	n.s.
仲介業者に紹介料を払わなくても良いから	53	76.8	80	89.9	133	84.2	4.99	1	.026	p<.05 *
フィリピン人/インドネシア人のケアの天性を日本人に見せたいから	73	100.0	97	100.0	170	100.0	—	—	—	—
フィリピン/インドネシアでの給与に満足できなかったから	11	16.2	7	7.8	18	11.4	2.71	1	.100	p<.10 †

EPA への応募時点で仕事がなかったから」「日本はどの国よりも高い給料が稼げると思うから」「フィリピン／インドネシアでの給与に満足できなかったから」が、経済状況が苦しい人では、経済状況が苦しくない人に比べて有意に高かった。ただしほとんどの場合に有意差傾向が認められる（p＜.10）程度のゆるやかな違いであった。

このように、性別でも経済状況による違いでもなく、全体的にはほぼ同じ傾向の来日動機をもつ人たちであるようだ。

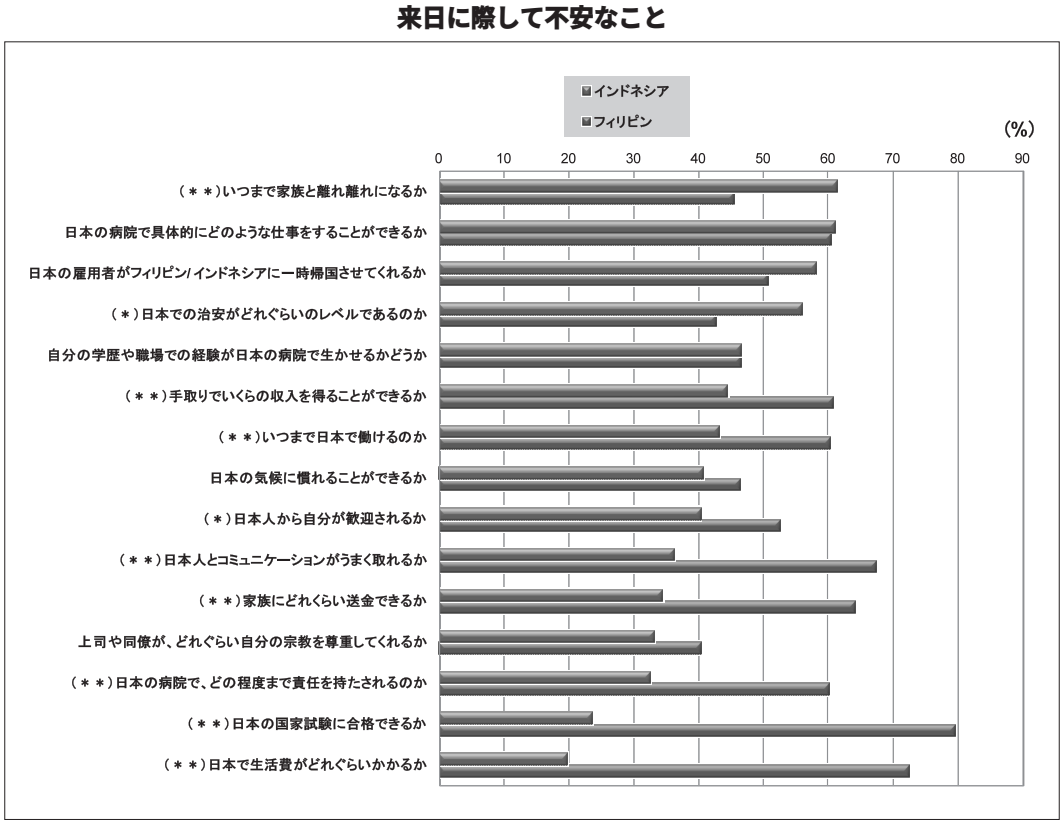
５．不安なこと

ほとんどの人が、来日するのも介護福祉士候補者として働くのも初めての経験なので、多くの心配や不安を抱えての来日だったであろう。複数選択の単純集計結果を示す。なお、両国の介護福祉士候補者の間で有意差の確認された項目については、１％水準での有意差が確認された項目が（＊＊）、５％水準での有意差が確認された項目を（＊）で示してある。

両国の介護福祉士候補者とも、様々な心配や不安を感じての来日だったようだ。今回のデータを比較するかぎりでは、フィリピン介護福祉士候補者のほうが、より多くの心配や不安を感じての来日だったようである。フィリピン人の方が海外で稼ぎ経験もあり、日本での滞在経験もあることを考えると、逆の結果が出てもおかしくはないのに、このような結果が出たのはなぜなのか、今回のデータだけでは分からない。これはインドネシア介護福祉士候補者よりも年齢層が上だったことや、結婚している人たちが有意に多かったことなども影響しているのかもしれないが、今回のデータだけでは確かなことは言えない。今後ともデータを蓄積して分析していくことが必要である。

６．まとめと考察

インドネシア介護福祉士候補者（第二陣）とフィリピン介護福祉士候補者（第一陣）とでは、



属性に大きな違いが認められた。とくに年齢、婚姻状況、宗教などで顕著であった。また、分析したように、来日動機や来日にあたっての心配や不安の項目にも、両者で違いが認められた。このことは、両者が日本の介護老人福祉施設などで働いていくうえで、直面する問題や課題も違ってくる可能性がある。したがって、施設側も、受け入れやサポート体制の準備や対応にあたっては、こうした違いを考慮に入れた、よりきめ細かな対応が必要となるだろう。

ただし今回のデータからみつかった両者の違いが、今後とも持続する傾向であるかどうかは、現時点では分からない。EPA による両国の介護福祉士候補者の受け入れを、スムーズに進めるためにも、今回の調査のようなきちんとした統計的な方法によるデータの蓄積を進めていく必要がある。また、受け入れ後の実態についてもフォローアップ調査の必要性があるだろう。

謝辞

本稿は、九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト「日本の労働市場開放をめぐる国際社会学的研究―介護・看護分野を中心に」(研究代表・大野俊、2007～09年度)、日本学術振興会２国間交流事業共同研究「来日のインドネシア人ケア労働者の業務、生活、メンタルヘルスに関する国際的研究」(研究代表・大野俊、バクティアル・アラム、2009～12年度)、科学研究費補助金基盤研究Ｂ「経済連携協定に基づく外国人看護師の国際労働力移動の受け入れシステム構築に関する研究」(研究代表・平野裕子、課題番号213901066)、科学研究費補助金基盤研究Ｃ「介護労働の国際移動と異文化間介護 ── 東南アジアからの介護労働者の参入をめぐって」(2009～2011年度)(研究代表：小川玲子、課題番号21530534)の成果の一部である。質問票調査に協力してくださった株式会社ヒューマンリソシア、フィリピン海外雇用庁（POEA)、野村愛氏（アセンド教育財団）はじめ関係者の方々に厚くお礼を申し上げたい。